

先進国における災害時の乳児栄養 (2010,3/17, 2011/04/3改訂)

特に粉ミルク配布時の注意点について

被災地に善意の粉ミルクが送られています。これは粉ミルクが必要な赤ちゃんの生命に直結することだけに本当に重要なことです。通常先進国では粉ミルクは常に安全に調乳でき健康を害することはないと考えられています。それは、安全な水、電気・ガスなどのインフラが整っているからです。しかし、災害時にはこれらのインフラが破壊され、安全な水と電気・ガスと、清潔な容器（哺乳びんは災害時には消毒しにくく清潔な調乳ができません）を入手することがきわめて困難なため、安全に調乳することが難しくなります。報道によると、東北関東大震災の被災地では、まだインフラが十分でない地域が広範囲にわたっています。

また母乳だけで育てている母親や母乳と粉ミルク（混合栄養）で育てている母親に「災害時にはストレスで母乳が出なくなることがあります」というような限られた情報とともにミルク缶が配布されることがたいへん憂慮されます。母乳だけで育てている母親には、母乳育児を維持・継続出来るような支援（震災時でも母乳は出続けることや十分な食べ物飲み物が入手できなくても母乳を与え続けられること^{a)}）が必要です。混合栄養で育てている母親にもできるだけ母乳の分泌を維持し可能な限り増やすような支援（母乳を飲ませる時間や回数を増やすと母乳分泌量が増えます）が必要です。

なお、災害時には哺乳びんの洗浄消毒が十分できないため、粉ミルクや搾った母乳を飲ませるときは、「使い捨て紙コップによる授乳」がもっとも安全とされています。コップを使って飲ませる方法（カップフィーディング）は北欧を始めとした先進国のNICUで早産児にも広く適応されている安全な方法です。カップフィーディングについての資料は、

www.jalc-net.jp からダウンロード可能。携帯のQRcodeは以下【カップフィーディング】



母乳で育てている母親には、母乳育児を維持・継続出来るような支援が必要です。

a) 地震や水害にあった母乳育児中のお母さんへ http://jalco-net.jp/hisai_mother.pdf

このサイトの最後にお母さんと支援者から相談を受け付けるアドレスがあります

b) 災害時の乳幼児栄養に関する指針 http://www.jalco-net.jp/hisai_forbaby.pdf

支援する側への情報提供

c) 先進国における災害時の乳児栄養 : <http://www.jalco-net.jp/gribbleandberry.html>

PDF版 : http://www.jalco-net.jp/saigai_eiyou.pdf

以下にNPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会(JALC)翻訳「先進国における災害時の乳児栄養」⁹⁾を転記します。

Emergency preparedness for those who care for infants in developed country contexts

<http://www.jalco-net.jp/gribbleandberry.html> 全文は : <http://www.jalco-net.jp/gribbleandberry.pdf>

【要旨】

災害管理に関わる各組織は、たとえ先進国においても災害時においては乳児は弱者であることを認識している。しかしながら、これまで乳児の養育者には災害時用支給品セットとして必要なものについての情報が提供されて来なかった。災害管理組織は乳児の養育者に、災害時に乳児の養育に必要な支給品セットについて、母乳で育てられている児と人工乳で育てられている児とを区別して、正確かつ詳細な情報を提供する責務がある。

人工乳で育てられている児の養育者には、災害時の支給品セットと災害時における調乳の仕方を知らせる必要がある。授乳児への1週間分の支援品に含まれるものとして、以下があげられる。

◆母乳だけで育てている児に必要な支給品(1週間分)

- ・紙おむつ100枚
- ・お尻ふき200枚

◆人工乳だけで育てている児に必要な支給品(1週間分)

- ・粉ミルク900gの缶2つ

- ・金属ナイフ(粉ミルクを量るとき、平らにするのに使

う)

- ・飲料水170L(1日24Lとして計算)

- ・金属製の tong (滅菌物を取り出すため)

- ・保存容器(蓋付きでつぶれない固さのもの)

- ・金属か陶器のカップ(紙カップを使いすてにしてもよ

い)

- ・蓋付きの大きな鍋(器具を煮沸消毒するためのもの)

- ・大きめのペーパータオル300枚(手や器具を拭くた

め)

- ・やかん

- ・洗剤

- ・ガスコンロ、マッチまたはライター、LPG14kg

- ・紙おむつ 100 枚

(日本ではカセットコンロとカセットボンベ)

- ・お尻ふき 200 枚

- ・計量カップ(お湯を量るためのもの。消毒できるように耐熱性のものがよい)

(訳者注:陶器または金属の授乳用カップの代わりに、使い捨て紙カップを2重にして、80度の湯で粉ミルクを割り箸で溶き、それをさまして、1重にして授乳すれば、大きな鍋、金属か陶器のカップ、金属ナイフ、金属 tong、金属のスプーンは不要である。従って消毒が必要な調乳器具は計量カップのみとなり、鍋は小さいものか、場合によってはやかんで消毒すれば鍋は不要となる。そうすれば、洗浄や煮沸消毒用の水も考慮して試算される水の量は1週あたりほぼ56Lで済むので、カセットボンベの数も7本で済む。)

災害時だからこそ、感染症予防のために人工乳で育てられている子どもには衛生的に調乳されたものを与えられるべきであり、災害時だからこそ、感染症予防のために母乳だけで育てられている子どもが継続して母乳で育てられることが推進されるべきである。このことは、援助する組織や健康を管理する機関自体が確認しておかかけなければならないし、人工乳で育てている子どもの養育者に必要な援助が行き渡るようにしなければならない。

災害時に母乳だけで育てられている子どもの割合が多ければ多いほど、そのとき人工乳で育てられている子どもに必要な援助物資を回すことができる。

引用元 Draft Paper: Emergency preparedness for those who care for infants in developed country contexts Gribble KD, Berry, NJ,

要旨の日本語訳および注釈: 大山牧子、瀬尾智子 全文は:

【訳者附記】混合栄養で育てている母親への支援

人工乳だけで育てている児に必要な支給品（1週間分）を同じように渡しましょう。そして次のような内容の言葉を添えるか、印刷物を配りましょう。

—混合栄養で育てているお母様へ—

このような状況で母乳育児を続けることはとても重要です。母乳育児は赤ちゃんの命を救います。母乳の中の感染防御因子が、非常事態で流行する可能性のある下痢や呼吸器感染から赤ちゃんを守ります。これらの母乳の効果は赤ちゃんが飲む母乳の量に応じて効きます。ですから、これからも母乳育児を続けることはとても大事なことです。本日人工乳が支給されましたが、まずは、急にたくさん足さないで震災まえに使用していた量の人工乳を足していきましょう。そして、欲しがるときに欲しがるままに母乳をあげ続けてみましょう。お母さんのための食べ物や飲み物と、可能ならばプライバシーの保てる授乳用のスペースを優先的に確保するようにしましょう。お母さん自身が少しでも体を休めてリラックスし、きちんと食べて十分な水分を取るよう気をつければ、母乳の出をよくすることができます。

(提供：日本周産期・新生児医学会 2011/04/05)